

IV-237

社会経済の潮流変化と基幹交通体系整備の方向に関する分析

福岡山コンサルタント 正会員 井上 賢

同 上 香月 太

同 上 松尾政憲

はじめに

本論は高齢化、高度情報化及び産業構造の高度化等、社会経済の潮流変化と高速道路、空港をはじめとする基幹交通体系との関係を‘重心’の概念を用いてロケーション的に表示、把握することにより、基幹交通体系整備のマクロな方向性等について分析を加えたものである。

1. 分析のフレームワーク

①対象地域：九州全域（離島は除く）

②社会経済指標：社会潮流変化を5つのカテゴリーに分け、それぞれ代表的と思われる指標を設定した。

③交通施設：高速道路I.C、空港、J R特急停車駅、重要港湾。

2. 分析フローと方法

分析フローを図-1に示す。また重心位置の算出は表-1に示す考え方によった。

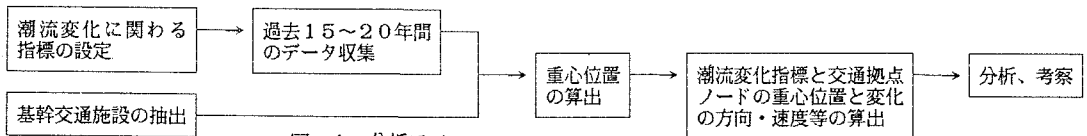


図-1 分析フロー

表-1 重心算出方法

社会経済指標	建設省設定の地方生活圏を基本単位に、各生活圏ごとに集計した社会経済指標を重みとして九州全域の重心位置を算出。
基幹交通施設	高速道路I.C、空港、J R特急停車駅、重要港湾位置をもとに算出。尚、空港、J R特急停車駅についてはそれぞれ便数、運行本数を重みとして考慮した。

3. 社会経済指標、基幹交通体系の重心位置の算出と考察

重心位置算出結果を図-2に示す。主要な動向は表-2のように要約される。

表-2 ‘重心位置’と動向

都市化（D I D人口）		動きは小さいが、直線的に南東方向に移動しており、空港の将来計画に近づきつつある。
高齢化（65才以上人口）		高齢者の流動性の低さを反映して、重心の変化速度は今回取り上げた指標の中ではもっとも小さい。基幹交通体系とも無関係な動きになっている。
サービス経済化（サービス業）		50年代に入って変化速度は鈍化した。現在位置と空港の将来計画がほぼ水平に並ぶ。
2次産業の高付加価値化（電気機械器具製造業）		変化速度は大きく、九州の潮流変化を示す代表的な指標の1つといえる。高速系交通機関を志向した動きとなっている。
高度情報化	ソフト（情報サービス業）	動きは定着化の方向にある。基幹交通体系の重心群からは遠ざかる傾向にある。
	ハード（電子・通信機器部品製造業）	今回取り上げた指標の中では変化速度はもっとも大きい。高速道路の将来計画と一致する方向にシフトしつつある。
基幹交通体系		高速道路I.C、空港の高速交通機関とその他で、現況の重心位置は明確に区分される。

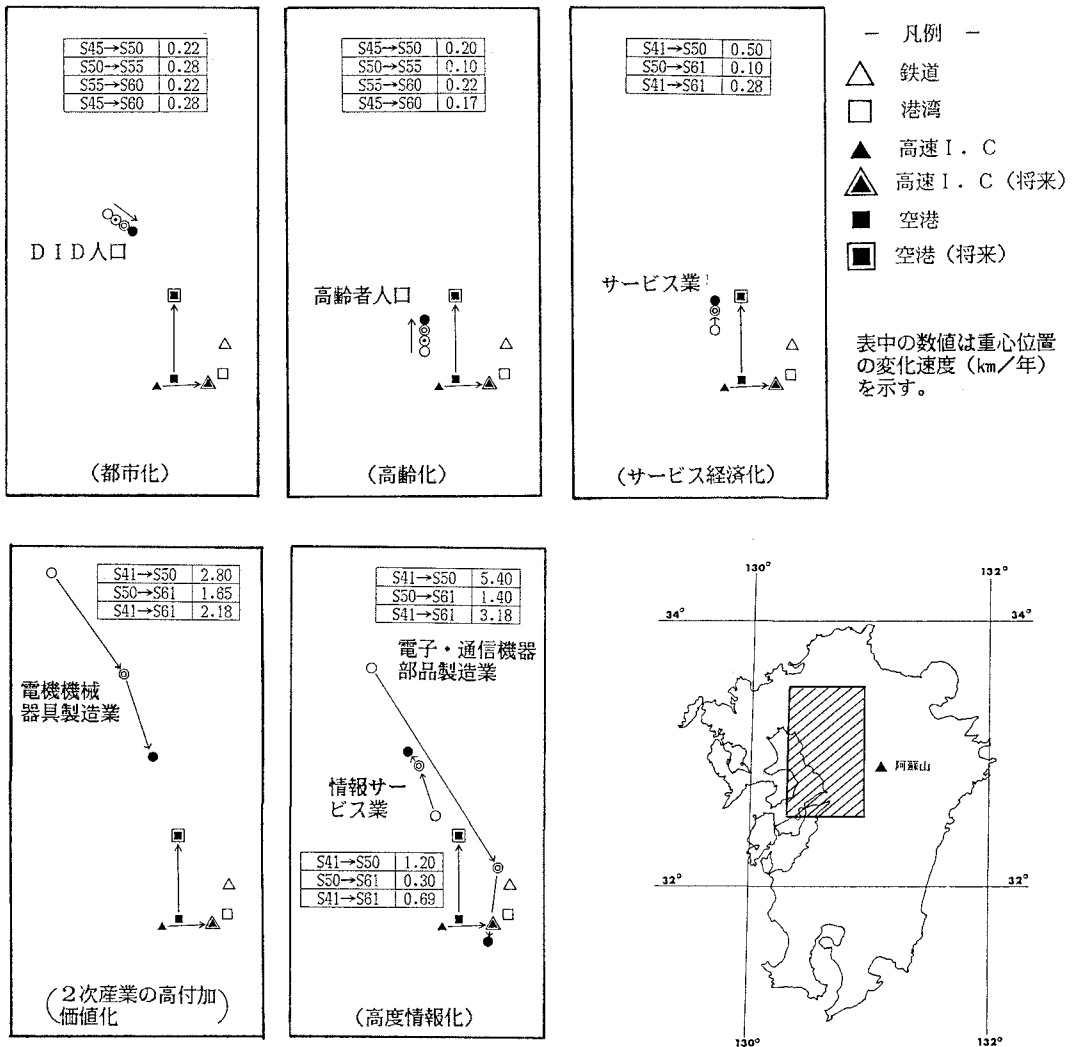


図-2 重心位置算出結果

4. 結論

社会経済の潮流変化の動向と基幹交通体系整備の方向との関係について、マクロではあるが‘重心’の概念を導入することにより簡便に把握することを試みたが、この結果明らかになった主要な事項を以下に列記する。

- ①重心位置の変化速度と方向性の相対的な比較により、潮流変化のロケーションナル面（配置パターン）での特徴が明らかになった。
- ②基幹交通体系の配置パターンは、高速系（空港、高速 I . C）と非高速系（鉄道、港湾）の2つに分かれている。
- ③近年、九州において主導的な役割を果たしつつある産業（電機機械器具・電子・通信機器部品製造業）のドラスティックな変化とその方向は、高速系交通機関整備の方向と一致している。
- ④変化速度が小さく、基幹交通体系の配置パターンとの一致性もみられない指標については、基幹交通体系に準じた交通体系との検証が必要である。